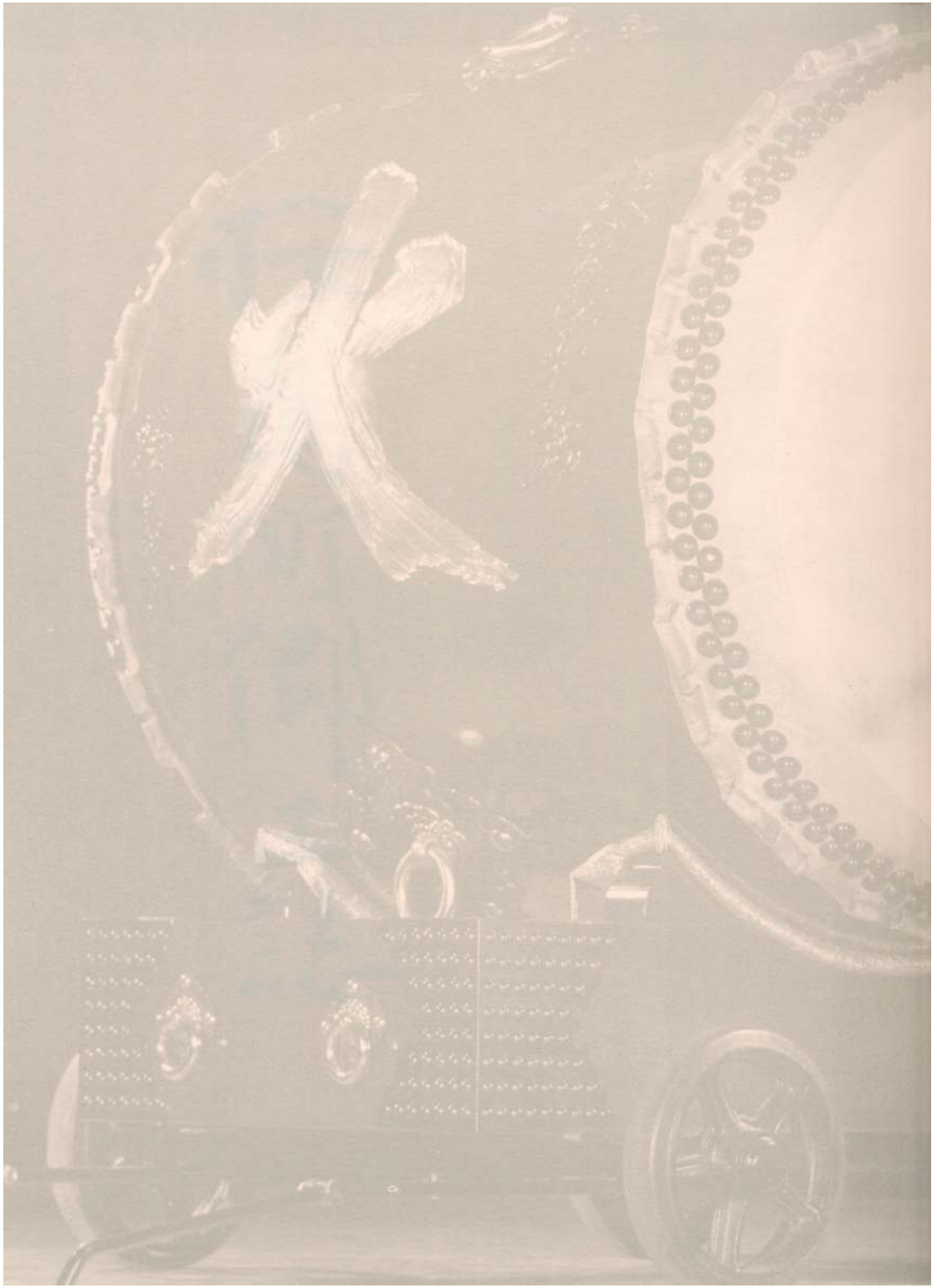
佐島町郷土誌



桜島町郷土誌

桜島町章

この町章は昭和48年５月１日、町制施行を記念して応募300余点の中から選定したものです。町名にふさわしく円形の下部に桜島、右上部に噴煙をあしらい火の島桜島を単純明快に表現し、円形は町民の融和と団結、噴煙は産業文化の飛躍発展を象徴したものです。

町花／さくら

町木／あこう

桜島町 町民憲章

わたしたちの桜島は、火の島の歴史と共に、鹿児島の象徴としてすべての人に親しまれています。

わたしたち桜島町民は、常に教養を高め、力を合わせていっそう住みやすいわたしたちの郷土として発展させなければなりません。これが、わたしたちの理想であり、また大きな喜びであります。

わたしたちは、この使命をなしとげるために、ここに町民憲章を定め、みんなでつぎのことがらを守り、力強く前進していきたいと思います。

一、わたしたち　桜島町民は　みんな　心身を鍛えて健康な町をつくりましょう。

一、わたしたち　桜島町民は　みんな　よく働いて　豊かな町をきずきましょう。

一、わたしたち　桜島町民は　みんな　きまりを守って　明るい　美しい町にいたしましょう。

一、わたしたち　桜島町民は　みんな　よい家庭をきずき　子どもたちの幸福を守りましょう。

一、わたしたち　桜島町民は　みんな　あたたかい心で　旅行者をむかえましょう。

（昭和48年5月1日制定）

昭和53年度完成の役場庁舎

昭和59年4月から24時間運航を開始した桜島フェリー

ビワの収穫

昭和56年度完成の町公民館

桜島小ミカン

昭和60年度完成の町総合体育館

世界一大きい桜島大根

世界火山会議を記念して建設された桜島ビジターセンター

大溶岩原を一直線に走る国道224号

夜の桜島フェリー桟橋

豊祭（月読神社）

棒おどり（松浦）

新しく創設された火の島太鼓

全国から2,500人が参加するランニング桜島大会

歴代村(町)長・議長

歴代村(町)長

初代・2代　横山源左衛門

明治22年9月就任、明治29年退任
明治22年7月就任、明治30年3月退任

4代　有村三介

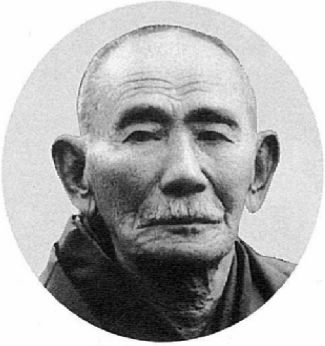
明治38年 6 月就任
明治40年 3 月退任

3代・5代・7代　大窪宗輔

明治30年4月就任、明治38年5月退任
明治40年4月就任、明治43年5月退任
大正 3 年5月就任、大正14年3月退任

8代　上山平吉

大正14年 4 月就任
昭和 4 年 3 月退任



6代　有村貞隆

明治43年 5 月就任
大正 3 年 3 月退任

10代　武　定利

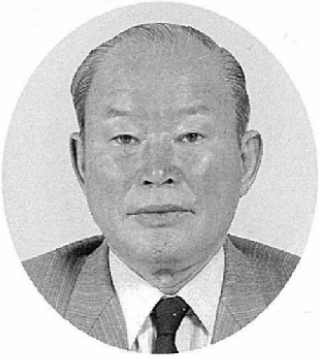
昭和22年４月就任

昭和38年５月退任

9代　久米芳季

昭和４年４月就任

昭和22年１月退任



12代　横山金盛

昭和50年４月就任

在任中

11代　有村虎太郎

昭和38年６月就任

昭和50年３月退任

歴代議長

2代　上山秀志

昭和24年7月就任

昭和26年4月退任

初代　野口藤市

昭和22年6月就任

昭和24年6月退任

4代　久米豊歳

昭和30年5月就任

昭和34年4月退任

3代　西元亀吉

昭和26年5月就任

昭和30年4月退任

6代　北村盛徳

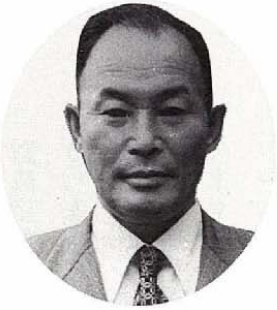
昭和38年6月就任

昭和42年4月退任

5代　有村虎太郎

昭和34年5月就任

昭和38年5月退任



8代 横山金盛

昭和46年5月就任

昭和50年4月退任

7代 上野英徳

昭和42年5月就任

昭和46年4月退任

10代 山下末雄

昭和52年6月就任

昭和54年4月退任

9代 平山　司

昭和50年5月就任

昭和52年6月退任

12代 西元芳弘

昭和62年5月就任

在任中

11代 福田實良

昭和54年5月就任

昭和62年4月退任

発刊のことば

桜島町長　横山金盛

永年期待されていた、桜島町郷土誌の発刊がここに出来ることは、この上ない慶びであり、誠に意義深いことであります。

我が町桜島の象徴桜島岳は、和同元年より大正三年の大噴火に至るまで約三十回の噴火をくり返しております。これら幾度となく大きな噴火活動に見舞われ文化遺産も多数紛失してまいりました。現在でも打ち続く降灰被害で町民経済と日常生活に大きな影響を与えています。

これらの自然条件や国際化、高度情報化、高齢化等急激な社会変化の中で、人間性豊かな町民が一体となって、新しい時代の活力あるぬくもりに満ちた郷土づくりに躍進を続けています。

桜島町は今「活力とぬくもりに満ちた豊かな火の島の歴史に生きる」まちづくりをめざして

① 豊かで活力ある生活基盤づくり

② 快適で生きがいと思いやりのある町づくり
③ 豊かな未来を創造する人づくり、文化づくり
④ 公営企業の健全運営と魅力ある観光地づくり
の四つを基本目標にした第三次総合振興計画を推進し、二十一世紀へ向かっての町づくりを積極的に進めています。

未来の本町の創造は、郷土の過去の歴史、先人の生活や業績、史跡などを知り現在と比較することが重要だと思います。

昭和五十四年以来八年有余の長きにわたり、より幅広く、より正確な資料集録に努力され調査執筆から編集まで大変なご苦労をいただいた委員の皆様や豊富な資料を提供いただきました方々へ深甚の敬意と謝意を申し上げますとともに、この郷土誌がわが町の教育、文化、産業の振興や観光その他幅広く有効に利用され本町発展の資となることを希望し発刊のあいさつといたします。

郷土誌の発刊にあたり

桜島町教育長　長　嶺　虎千代

長い年月、心ある多くの町民、町出身の方々の願望に温められてきたふる里桜島の郷土誌編纂が昭和五十四年編集委員会の発足以来八年余りの歳月をかけて、完結することになりました。

関係各位の筆舌に尽しがたいご苦労の成果であり心からご同慶にたえません。

脱稿が当初の計画より大幅に遅れたのは編集委員諸氏の努力を阻む歴史的桜島の宿命ともいえる災厄が横たわっていたからであります。

有史以来の度々の噴火、特に文明、安永、大正三年の大噴火のため島内、町内の産業、経済、それに歴史等の殆んどの資料が焼失埋没し、わずかに難を免れた資料、それも散逸したものを集めたり、県内外の文献等を漁(あさ)って、集大成までもっていかなければならなかったことも原因の一つであります。

桜島では噴火による歴史分断のため伝統文化の重みがないと言われており、それ故にこそこの「郷土誌」が今後背負い果さなければならない役割は大きいと思われます。

「……累世墳墓ノ地ヲ辞シテ敢ヘテ未踏ノ地ニ漂流ス涙ナキオ得ンヤ」小林市の移住地の記念碑の碑文であります。この郷土誌の坦々とした記述の中にもこのような怨念も隠されていることを汲みとっていただけるのではないかと思います。

先人の血と汗と知恵の記録が貴い伝承文化として二十一世紀の主人公たちに受け継がれなければならないものならばこの「桜島の郷土誌」は将に歴史の珠玉編であると申せましょう。

最後に海老原編集委員長はじめ六人の委員の方々、それに編集に直接ご協力いただきました、前床重治、俣野芳郎、片平高男の三人の先生方、そして事務局の責任者としてお世話いただいた富永宏先生はじめ歴代の社会教育課長や担当職員に心から感謝を申し上げ、今は亡き編集委員の故上山義雄氏、上山匡夫氏、崎村登志正氏のご霊前につつしんでご報告いたし、お喜びいただけるようお祈り申し上げ発刊のごあいさつといたします。

目　次

発刊のことば　桜島町長　横山金盛
郷土誌の発刊にあたり　桜島町教育長　長嶺虎千代

表紙題字　法元康州書
日展委嘱・鹿児島女子短期大学

第一編　地　誌

第一章　桜島町の概観……1
第一節　位置・面積……1
第二節　地　勢……2
第三節　人　口……6
第四節　字名考……10
第二章　桜島の自然……17
第一節　動物相……17
一、陸生動物……17
二、水生動物……18
第二節　植物相……27
一、陸上植物……27
(一)　概観……27
(二)　植物の垂直分布……28
(三)　溶岩流上の植物……35
(四)　植物の水平分布……39
二、水生植物……43

第二編　歴　史

第一章　原始・古代……47
第一節　旧石器時代……47
第二節　縄文時代……51
第三節　弥生時代……61
第四節　古墳時代……65
第五節　神話時代……70
第二章　歴史時代……85

第一節　隼人……85
第二節　大化の改新後の朝廷の対隼人政策……90
第三節　薩摩国の創置……92
第四節　大隅国の創置……93
第五節　古代の桜島……93
第六節　隼人の反乱……104
第七節　鎌倉時代……109
第八節　南北朝時代……109
第九節　室町時代……113
第十節　織豊時代……115
第十一節　江戸時代……116
一、桜島郷……116
二、桜島の村々……119
三、桜島郷の麓……121
(一)　郷士の生活……124
(二)　藤野村藤崎家……126
四、農村（在）……138
(一)　桜島の門割制度……139
(二)　桜島の公役……140
(三)　桜島農民のくらし……142
五、漁村（浦）……143
六、桜島の産物……146
七、安永の噴火……159
八、薩英戦争と桜島……165

第三編　現　代

第一章　政治・財政……169
第一節　政治……169
一、戦時体制……169
二、戦争末期……169
三、終戦後……170
四、公職追放……171
五、新憲法……172
六、地方自治法制定……172
七、町村合併……174
八、行政機構……181
九、町議会……187

十、監査委員……192
十一、終戦後の選挙……193
第二節　財政……195
第二章　交通・通信……203
第一節　公営企業……203
一、船舶運送事業……203
(一)船舶事業……203
(二)南海郵船フェリーとの競合……211
(三)昭和十六年以後の主な施設増強と主なできごと……227
(四)部落船……230
(五)建築物……236
二、自動車運送事業……239
(一)自動車運送事業の生い立ち……239
(二)一般貸切旅客自動車運送事業の始まり……245
(三)黒神口までの路線延長・他社との争奪合戦……246
(四)登山観光バス……254
(五)自動車運送事業の財政状況と財政再建計画……261
三、桜島水族館……267
四、国民宿舎・ユースホステル……269
第二節　通信……276
一、郵便……276
二、電信・電話……281
第三章　産業……283
第一節　農業……283
一、農業の概要……283
二、明治時代の農産物……290
三、大正三年桜島噴火による農作物の被害と善後策……292
四、農家戸数・人口・生産物等の推移……294
五、昭和三十年以降爆発による農作物被害額……303
六、果実類の販売概況……304
七、桜島の農作物……308
八、農政……323

(一) 赤水早熟蔬菜栽培の起源……323
(二) 戦前の農村建設計画……326
(三) 経済自立化運動……328
(四) 農村振興運動……332
(五) ビワガン腫病防除試験……333
(六) ミカンの空中散布事業……336
(七) 農畜産物生産指導機関……345
(八) 農地改革の変遷……346
九、農業団体……360
(一) 農会……360
(二) 産業組合……365
(三) 農業会……369
(四) 農業協同組合……375
(五) 農業共済組合……393
(六) 農地委員会……395
(七) 農業委員会……397
十、畜産……404
十一、農機具利用状況の推移……407
第二節 林業……410
一、林業全般……410
二、西桜島村森林組合……411
第三節 水産業……412
一、漁業の概況……412
二、釣漁業……413
三、網漁業……413
四、その他の漁業……418
五、現代の水産業……418
六、真珠養殖業……420
七、ハマチ、イシダイその他の養殖……422
八、噴火の影響と水産業—水銀汚染漁の出現……426
九、西桜島漁業協同組合……428
第四節 商工業……431
第四章 土木・建築……437
第一節 土木……437
一、土木事業……437
二、海岸線……437
三、町道……439

四、海岸高潮対策事業　……443
第二節　建築　……446
一、公共建物　……446
二、公営住宅　……450
三、個人住宅　……460
第五章　消防・治安　……462
第一節　消防　……462
一、消防の変遷　……462
二、戦争中の消防組織　……463
三、警防団から消防団へ　……463
四、昭和四十五年以降消防団の出動した桜島町における災害等調査表　……465
第二節　治安　……466
一、警察　……466
二、自警団　……471
三、交通安全　……472
第六章　民生・衛生　……475
第一節　社会福祉　……475
一、戦前・戦時中の社会福祉　……475
二、戦後の社会福祉　……475
三、社会福祉事業の現況　……476
四、民生委員　……485
五、社会福祉協議会　……486
六、西桜島中央隣保館　……486
七、桜島保育園　……487
第二節　保健・衛生　……489
一、保健、衛生思想の普及と衛生組合の設置　……489
二、保健所の発足　……490
三、診療所　……490
四、保健、衛生対策　……492
五、国民健康保険　……495
六、水道　……499
七、清掃施設　……502
第七章　噴火　……503
第一節　和銅～安永　……503
一、桜島噴火年表　……504
二、安永年間の噴火　……508

三、安永噴火の被害……513
第二節　大正三年の大噴火……515
一、噴火前の桜島……515
二、噴火の前兆……516
三、科学不信の碑……521
四、噴火の様子……530
五、避難……535
六、避難地と罹災民……550
七、各界の救護活動……563
八、爆発と被害……573
第三節　昭和期の爆発……589
第四節　桜島爆発防災訓練……595
第五節　桜島南岳噴火対策……600
第六節　土壌保全と営林署事業……631
第七節　降灰対策の要望と処理……640
第八節　京都大学桜島火山観測所沿革……659
第九節　土石流……666
第八章　教育……668
第一節　桜島町教育の概要……668
第二節　学校教育……669
一、桜洲小学校……671
二、桜峰小学校……674
三、桜島中学校……679
四、桜峰幼稚園……683
第三節　社会教育……684
一、子どもの教育……685
二、青年の教育……686
三、婦人の教育……687
四、父母と教師の会……689
五、社会教育施設……690
六、社会体育……691
第四節　その他の教育……695
第五節　教育系統図と教育年表……698
第六節　教育委員会……712
第七節　桜島町奨学金制度……714
第九章　宗教……715
第一節　神道……715
一、桜島町内の神社……716

(一) 月読神社……717
(二) 五社神社……719
(三) 愛宕枚聞神社……719
(四) 小烏神社……719
(五) 尾地底神社……720
(六) 南方神社……721
(七) 地方神社……721
(八) 三柱神社……722
(九) 水神社……722
(十) 大元神社……722
(十一) 豊受大山津見神社……723
(十二) 厳島神社……723
(十三) 御嶽蔵王権現社……724
(十四) 御嶽龍王権現社……724
第二節 仏教……725
一、廃仏毀釈以前の仏教……725
二、現在の寺院……728
第三節 その他の宗教……729
一、天理教……730
二、創価学会……730
三、立正佼成会……731
四、民間宗教者……731
五、諸教……731
第十章 兵事……732
第一節 常備隊……732
第二節 西南の役……733
第三節 日清戦役……753
第四節 日露戦役……756
第五節 第一次世界大戦……760
第六節 第二次世界大戦……763
第七節 第二次世界大戦戦没者名簿……779
第八節 第二次世界大戦後復員者名簿……797

第四編 文 化

第一章 風俗……833
第一節 住民生活……833
一、明治末期から昭和初期の住民生活……833

二、終戦前後の住民生活……838
第二節　人生儀礼……844
一、妊娠、出産儀礼……844
二、婚姻儀礼……847
三、葬制……849
四、墓制……853
第三節　年間行事……854
一月　二月　三月　四月
五月　六月　七月　八月
九月　十月　十一月　十二月
第四節　あそび……868
第五節　民話・伝説……875
第六節　地謡……904
第七節　文学者の見た桜島……909
第八節　ことわざ……914
一、世渡り……915
二、暮らし……917
三、結婚。出産、嫁……918
四、天候……918
五、産業……919
六、その他……920
第二章　文化……921
第一節　指定文化財……921
一、記念物・史跡……921
二、記念物古石塔……924
三、民俗有形文化財……926
四、天然記念物……928
五、民俗無形文化財……929
第二節　無指定文化財……930
一、記念物・史跡と古石塔……930
第三節　その他……934

資料編

桜島町小字図（大字別）……937
桜島町年表……948
桜島町道各線の延長及び施行機関……957
あとがき……962